

船舶事故調査報告書

平成30年6月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	沈没
発生日時	不明（平成30年2月14日 16時00分ごろ～15日 07時00分ごろの間）
発生場所	北海道森町森港 森港西防波堤灯台から真方位240° 650m付近 （概位 北緯42° 06.6′ 東経140° 35.1′）
事故の概要	漁船 ^{きゅうよし} 久由丸は、係留中、沈没した。
事故調査の経過	平成30年2月19日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 久由丸、4.9トン
船舶番号、船舶所有者等	HK3-107562（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	操舵室、機関室等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 雪、風向 北西、風力 2～5 海象：波高 約0.7～0.8m 森町には、2月14日10時04分に大雪注意報が発表され、15日05時05分に解除されていた。 森町には、2月14日夜から15日朝にかけて約20～30cmの積雪があった。
事故の経過	船長は、平成30年2月13日午前中、雪が降っていたので、森港に係留中の本船に赴いて除雪を行うとともに、ビルジポンプでビルジの排出を行った。 船長は、14日も雪が降っていたものの、吹雪 ^{しげ} で時化していたので、翌日、除雪を行うことにした。 地元の漁業者は、14日16時00分ごろ係留されている本船を確認し、15日07時00分ごろ沈没している本船を発見して所属する漁業協同組合に通報した。 船長は、雪解け水が凍って本船の片舷に4～5個設けられた放水口（高さ約5～6cm、幅約25～30cm）が閉塞する状況となり、雪解け水及び雪の重みにより、本船が沈没したのではないかと本事故後に思った。
分析	本船は、森港に無人で係留中、14日16時00分ごろ係留されているところの確認され、15日07時00分ごろ沈没しているところを発見されたことから、この間において、沈没したものと考えられる。

	<p>本船は、雪解け水が凍って放水口が閉塞する状況となり、雪解け水及び雪の重みにより、沈没した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、森港に無人で係留中、沈没したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小型船舶の所有者は、大雪が予想される場合、船体にシートを掛けておくことが望ましい。